

小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	26	施策名	都市基盤施設の維持・強化	
小施策コード	26-7	小施策名	雨水浸水対策の推進	
小施策 主管課等コード	902500	小施策 主管課等名	経営企画課	
評価責任者名	伊藤 亨		内線番号	6230
評価シート作成者名	小笠原 美千代		内線番号	6231

Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
市道改良率*	↑	%	73.9	74.4	74.6	74.8	75.7
まちづくり評価アンケート調査「公園や街路樹などの街の中の緑が多いと思う」と答えた市民の割合	↑	%	74.2	74.7	78.1	80.0	80.0
水道管路の耐震化率	↑	%	23.3	24.9	25.5	29.6	34.6
汚水処理人口普及率（処理区域内人口/行政区域内人口）	↑	%	95.0	95.2	95.3	96.0	97.8
面的整備による生活環境整備率（整備済路線延長/整備計画路線延長）	↑	%	29.0	30.5	31.7	63.0	97.0

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

* 28年度に新しく追加した指標。

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
雨水排水施設	浸水被害を解消し、安全な水環境が確保される。
市民	市民の生命・財産の保護及び都市機能の確保を図る。
現状と課題	近年の都市型集中豪雨による浸水防除のためにも、幹線水路の整備や面的整備を進める必要がある。
取組の方向性	浸水状況の把握を行い、緊急性のある雨水幹線整備を重点的に実施することにより、浸水被害を解消し、市民の生命・財産の保護及び都市機能の確保を図る。

Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
下水道雨水施設整備率（整備面積／雨水認可面積）	↑	%	60.2	60.9	61.6	61.4	62.8

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

Step 4 市民ニーズの把握

議会・まちづくり懇談会等では浸水被害による下水道整備要望が出ており、整備促進の必要性が生じている。

Step 5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	浸水被害の解消や都市機能の確保のために、収入の確保から施設建設・維持管理に至るまで、公営企業として主体的に経営を行う。	60
	国・県・ 他自治体	下水道事業実施計画の審査を行い、交付金の交付を行うこと。 災害等非常時における相互応援体制について連携の強化を図ること。	30
	市民・ NPO	自らの雨水流出抑制、流水阻害要因の解消等に関する適切な措置及び対応を行うこと。	5
	企業・ その他	自らの雨水流出抑制、流水阻害要因の解消等に関する適切な措置及び対応を行うこと。	5

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

公共下水道は主として市街地における下水道を排除し又は処理する為に地方公共団体が管理する下水道で、市が主体的にその運営及び維持管理を行うべきものであるため。

Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ 浸水被害箇所に対して、短期的に対応できる側溝整備や柵改良等を行う。
- ・ 未整備箇所の点検を行い、危険箇所には土のう設置等の対策を行う。

2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済，B：平成29年度に着手（予定含む），C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
浸水被害箇所に対して、短期的に対応できる側溝整備や柵改良等を行う。	側溝整備や柵改良等の実施	A
未整備箇所の点検を行い、危険箇所には土のう設置等の対策を行う。	土のう設置の実施	A

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

雨水整備率の増 (60.9%→61.6%)

(2) 成果をあげた要因

未整備地区における雨水排水施設整備が行われたことによる。

(3) さらなる成果向上に向けた課題 (課題がある場合に記載)

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

Step6の改革改善案の実施状況は、一部に着手しているだけなので、効果的な対策を継続していく必要がある。

(2) 現状の問題点が生じている原因

浸水被害箇所が多いため、単年で対応できる箇所は限られているため。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

側溝整備や柵改良等も事業費や期間が必要であり、未整備箇所の点検や土のう設置にはマンパワーが必要である。

Step8 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

2 1で記載した事業についてその理由

3 1で記載した事業の今後の方向性 (案) (縮小・廃止・統廃合等)

Step9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

地元と調整のうえ、土のう設置に住民の協力が得られる土のうステーションを増設する。